

オーケストラと友に コミュニティコンサート



5月5日 ゆめあるて



第675号
発行人●豊丘村公民館 館長 原 国人
編集人●長野県下伊那郡 豊丘村公民館報 編集委員会
0265-35-9066
印刷所●龍共印刷株式会社

私たちの村
(5月1日現在 ※外国人を含む)
男 3,346人
女 3,425人
総人口 6,771人
世帯数 2,126戸

豊丘へ名フィルメンバーが やって来た

飯田市で毎年開かれている「オーケストラと友に音楽祭」の一環として、「コミュニティコンサート」がゆめあるてで開かれました。名古屋フィルハーモニー交響楽団から木管三重奏のメンバーが訪れ、数々のクラシックの名曲を演奏し、フィナーレには、とよおかウインドアンサンブルと中学校吹奏楽部も加わって「ラテツキ」行進曲が賑やかに奏でられ、ホール一杯の二百五十名の聴衆を魅了しました。

「コミュニティコンサート」とよおかに参加させてください
豊丘中学校吹奏楽部顧問 山口幸枝

五月五日に、ゆめあるてにて、「オーケストラと友に音楽祭二〇一七コミュニティコンサート」とよおかに開催されました。このコンサートのために、四ヶ月前から、実行委員会の方を中心に準備をすすめていただきました。豊丘中学校吹奏楽部は、歓迎演奏として、松下倫士作曲の「繚乱〜能「桜川」の物語によるラプソディー」と、合同演奏として、名フィルの方と、とよおかウインドアンサン

ブルの方と一緒にヨハン・シュトラウスI世作曲の「ラデツキ」行進曲を演奏させていただきました。演奏会には多くのお客様が来場され、満席となりました。演奏会前の歓迎演奏は緊張しましたが、今ある力を出し切り、精一杯表現できました。演奏会には名フィルの首席奏者の方による木管三重奏で、表現の深さと音色のすばらしさに魅了されました。オペラや室内楽の名曲から、タンゴ、映画音楽まで幅広いジャンルの選曲とユーモアたっぷりのわかりやすい解説で聴く人の心をつかみ幸せなひとときを過ごすことができました。



ゲオルギ・シャシコフ氏/山本直人氏/ロバート・ボルシヨス氏

合同演奏では一緒に演奏させていただけると喜びを感じながら演奏ができました。演奏後の交流会では、名フィルの方に演奏のアドバイスをいただきました。ゆつくりの練習は一番大変だけれども効果があることや、自ら音楽を楽しみ、聴き手に音楽の楽しさを伝える気持ちが大切であることを教えていただくとともに、次の練習への示唆をいただきました。

コミュニティコンサートではプロの方の演奏を間近で聴き、共演させていただくことで、すばらしい勉強の機会となりました。この経験がこれからの演奏にかせるように頑張りたいと思います。また、このような機会を与えていただいた実行委員会を中心として、準備に携わっていただいた全ての皆様に心から感謝いたします。

みんなの心をひとつに

長野県市町村対抗駅伝で豊丘チーム健闘

四月二十九日に、第二十七回長野県市町村対抗駅伝競走大会・第十三回市町村対抗小学生駅伝競走大会が松本平広域公園陸上競技場を発着点に開催されました。豊丘村は、一般が五十八チーム中三十三位で、これは村の部五位になります。また、小学生が六十二チーム中三十三位で、それぞれ昨年を上回る結果となりました。

初めての市町村対抗駅伝

豊丘中学校二年 片桐 彩

私は、初めて市町村対抗駅伝に出ました。選考会で選手に選ばれた時、うれしい反面、上手く走れるか心配でした。しかし、豊丘村代表で出るかぎりベストを尽くそうと思い、当日まで家の周りなどを走ったりして、少しでも力をつけようと努力してきました。当日、バスの中ではあまり緊張しなかったけれど、競技場に着くと、一気に緊張してき

ました。観客席には、村の団幕を張りました。ゼッケンももらいユニフォームにつけた後、少しアップをして固まっていた身体をほぐしました。時間になり一回目の招集に行くとき、強そうな選手ばかりで、すく心配になりました。一回目の招集の後、少し休憩し、何分かつてもう一度アップをし、本番で走る速度を確認しました。三分前になりスタート地点に立ちました。五秒前に



健闘した豊丘村チーム

は前に出て、いよいよスタートしました。みんな一斉に走り出しました。みんな速くて私は先頭についていけません。しかし、自分のペースで走りながらだんだんと抜かしていきま

少し悔いがありますが、ベストを尽くせたと思います。とても良い経験になりました。良いことと思

(壬生雅穂)

段丘

昨年、本紙で五十三年間にわたり掲載されてきた「戸籍の窓」が廃止された。出生、婚姻、死亡した人の名前を載せていたあの欄が消えた理由をお話する▼

きっかけは村民から役場へ寄せられた「プライバシーをおおやけにするべきではない」という意見だった。個人情報取り扱いには細心の注意を払わなければならない時代である。編集委員会として「戸籍の窓」がなくなる時が来たかと判断した▼その直後から「村民の動向を知るいい機会だったのに残念」という読者の声が続いた。知り合いのことは気になるものだし、慶事を喜んだり逝去を悼んだりするのは自然の感情だろう。しかし、たとえ祝い事であっても不特定多数の人に対しては「自分のことは知られたくない」という人が増えたのである。「戸籍の窓」の存在を疑問視する人が現れたということは、世の流れというより「村全体が仲間」という意識が薄らいだ証左であろう▼プライバシーといえは近年、火災発生の際の放送では個人情報保護するため現場の住所、氏名を明らかにせず「〇〇付近」という言い方になった。こんなことで迅速な消火ができるのかと思ひ役場に尋ねたら「飯田広域消防本部からの第一報のあと、役場の判断で詳しい場所を付け加えて放送している」とのこと。良いことと思

リニアの声

第11回

動き出した リニア中央新幹線

市の沢 市澤和宏

屋でひつまぶし、また職場は東京・名古屋へ新幹線で通勤。なんて事が当たり前になってきそう。しかし反面、飯田からは人が外に出て行く様になるだろうが、どれ位の人が逆に来てくれるか、全くの未知数と感ずる。

二〇二七年（平成三十九年）に開業予定のリニア中央新幹線。予定では残すところあと十年。これを考えるともうそんな遠い未来の事とは思えない。この四月に長野工区が大鹿村で着工されたこと。開業すれば飯田と東京間四十分、飯田と名古屋間は二十分の時間圏となる。大都会との距離が格段に縮まる。充分日帰り圏となるのだ。ちよつと東京で買い物、お昼名古屋



リニア対策委員会（5月10日 豊丘村保健センター）

合わせて苦笑してしまった。地元に対して自信のない私が良くないのだろうか。私は住まいが河野の為工事が直接の現場ではない。これから残土の問題、工事車両の交通の問題、工事に伴う大事故の懸念、発生する電磁波の問題、駅周辺の再開発の問題等まだまだ山積とす。それぞれの立場で知恵を出し合い皆で素晴らしい未来への財産に出来ることを期待したい。動き出したリニア中央新幹線。大阪開業予定二〇四五年が八年前前倒しになるとの報道もあった。これからの動きに注目したい。「都の塵も通い来ぬ」と歌われた当飯伊地区に南アルプスを貫き大きな風穴が開こうとしている。良い「塵」が通って来てくれることを切に希望する。

豊丘村を知る 学びの会がスタート 4月18日 第1回公民館学習会

一四九名の受講申し込みがあり、賑やかに学習会がスタートしました。今年度は高齢者クラブ連合会のご後援をいただき「豊丘村の、自分の、歴史を学ぶ」をテーマに進めて参ります。第一回は郷土史家、酒井幸則氏のご講演をお聞きし、早速「村内を見て歩きたい」という要望をいただきました。学習会から更に学ぶ場を広げる皆様の心意気に、公民館も積極的にお応えしていきたいと思っております。

公民館学習会 デビュー

北市場二 林恵美子

今年度の公民館学習会のテーマ「郷土の歴史を学ぶ」で自分の生き方を考える」に魅かれ、退職と還暦という節目を迎えた私にぴったりのテーマだと思ひ、公民館学習会に受講者として初参加させて頂きました。

四月十八日の第一回目の学習会は、百人を超える参加者で、昨年までは少なかった男性も大勢参加されておりました。私より年配の皆さんの

学習意欲や活気を感じ、「負けておれんな」と大いに刺激を受けました。初回の学習内容は、郷土史家の酒井幸則先生から身近にある庚申塔や甲子塔等の石仏の意味について学び、「お日待ち」の行事や「還暦」が千二十支の干支にまつわる行事だと知りまし。また、私が今まで知らなかつた「蚕玉様」や「猫神様」の石仏の存在を知り、自然や暦、養蚕を大切に生きてきた先人の歴史や暮らしに思いを馳せました。今後の学習内容は、前半

で井伊家や満蒙開拓団の歴史を学び、後半で自分の生き方を考える内容になっていきます。真に「温故知新」、今後の人生を考える糧にしたいと思っております。

平成29年度 公民館学習会年間計画

回	月日	テーマ
1	4月18日(火)	開講式 歴史を学ぶことについて
2	5月11日(木)	大河ドラマ「おんな城主直虎」を楽しむ
3	6月12日(月)	現地研修(バス旅行) 大河ドラマ「おんな城主直虎」の舞台・浜松市井伊谷を訪ねる
4	7月21日(金)	満蒙開拓の歴史が語りかけてくるもの
5	8月21日(月)	満蒙開拓と私の人生(体験談)
6	9月26日(火)	仏の智慧を暮らしに活かす
7	10月23日(月)	輝きの人生「終活(しゅうかつ)」
8	11月28日(火)	書いてみましょう、自分の歩み
9	2月6日(火)	落語 一席 開講式

第1回学習会の様子

福澤 勝美さん 八十九歳 北入在住 福耳が印象的な勝美さん。昭和二年に、主に農業を生涯としていた両親の元、四人きょうだいの長男として現在地に生まれた。一ヘクタール程の農地を有する一方、病弱なこともあり行政書士を営んでいた父親に替わり、農業の担い手は母親であった。小学校入学前には、近所に住む数人の同年生と遊んだこともあるが、小学校六年生頃からは帰宅後、また農繁休みなど父親替わりに農業を手伝っていた。高等科を卒業し青年学校で五年間学んだ後は、本格的に農業に従事し始め、以後農業一途の生活となった。

昭和二年に、主に農業を生涯としていた両親の元、四人きょうだいの長男として現在地に生まれた。一ヘクタール程の農地を有する一方、病弱なこともあり行政書士を営んでいた父親に替わり、農業の担い手は母親であった。小学校入学前には、近所に住む数人の同年生と遊んだこともあるが、小学校六年生頃からは帰宅後、また農繁休みなど父親替わりに農業を手伝っていた。高等科を卒業し青年学校で五年間学んだ後は、本格的に農業に従事し始め、以後農業一途の生活となった。

昭和二年に、主に農業を生涯としていた両親の元、四人きょうだいの長男として現在地に生まれた。一ヘクタール程の農地を有する一方、病弱なこともあり行政書士を営んでいた父親に替わり、農業の担い手は母親であった。小学校入学前には、近所に住む数人の同年生と遊んだこともあるが、小学校六年生頃からは帰宅後、また農繁休みなど父親替わりに農業を手伝っていた。高等科を卒業し青年学校で五年間学んだ後は、本格的に農業に従事し始め、以後農業一途の生活となった。

昭和二年に、主に農業を生涯としていた両親の元、四人きょうだいの長男として現在地に生まれた。一ヘクタール程の農地を有する一方、病弱なこともあり行政書士を営んでいた父親に替わり、農業の担い手は母親であった。小学校入学前には、近所に住む数人の同年生と遊んだこともあるが、小学校六年生頃からは帰宅後、また農繁休みなど父親替わりに農業を手伝っていた。高等科を卒業し青年学校で五年間学んだ後は、本格的に農業に従事し始め、以後農業一途の生活となった。

公民館登録グループ活動紹介 第6回

着物と出会う

着つけ教室 代表 原 豊子

に前結びというのは、目は前・手は前にあるのでみえない後結びに比べてとても楽にできます。自分一人で着られ帯も結べる事は私達の目標であります。年に数回、自分の発表の場も兼ねてお食事会をします。満足のいく着つけが出来た喜びは格別!!人にみていただくのもうれしいものです。

とよおかまつりでは「結」帯結着つけ教室を始めて三年がたちました。最初はただ着物が着られればいい、帯が結べればいい、との思いからでございますが、簡単なようで奥が深い事に驚きです。何事も前へ進んでいく事は大変ですが、お陰

眠っている帯を世の中に出して想いを帯に託して自分の感性で飾る。大変ですが完成の喜びはとても大きいものです。月二回のおけいこも楽しくゆるやかに。日本の伝統衣装の着物。母から娘へ孫へと受けつがれてゆく大切なお着物。一人一人が大事に守っていかたいいな、と思っております。

興味のある方は是非ゆるめてのおけいこを見学においで下さい。楽しく伝統を学ぶ

シリーズ「元氣な高齢者」③ 農事終え風情を筆にして健康長寿

福澤 勝美さん 八十九歳 北入在住



福耳が印象的な勝美さん。昭和二年に、主に農業を生涯としていた両親の元、四人きょうだいの長男として現在地に生まれた。一ヘクタール程の農地を有する一方、病弱なこともあり行政書士を営んでいた父親に替わり、農業の担い手は母親であった。小学校入学前には、近所に住む数人の同年生と遊んだこともあるが、小学校六年生頃からは帰宅後、また農繁休みなど父親替わりに農業を手伝っていた。高等科を卒業し青年学校で五年間学んだ後は、本格的に農業に従事し始め、以後農業一途の生活となった。

勝美さんも例外では無く、保育園、小学校PTAを始めとして農業委員、安協、森林組合、伴野区委員、区長、神社総代、土地改良、史学会など多くの職を長年に亘って勤めた。特に農業委員は、当時農業立村を推進していた村長の後ろ盾の元、郡下で最年少の会長として存分に活躍した。時間に余裕ができた七十歳代以降は、多くの時間を趣味に費やしている。特に旅行が好きで、夫婦で国内のほとんどもを訪れた。また川柳を嗜み、南信州、公民館報へは毎月投稿し選者も勤めている。更に書道は老人大学入校時から始め、夫人はだしの腕前で伴野地区の情景を詠んだ「伴野八景」、「百人一首」の書写、創作による、シ

創作いろは歌

文責 桐崎 長一 宮下 正弘

鉄道全国旅歩き

第7回 レールは途切れる

北市場三 山本義彦



「下線路はつづくよ何処までも」と言う歌があるが、子供も大人も夢と希望を懐いた曲だったこの歌も、間もなく死歌になる憂いがある。

今年四月で国鉄分割民営化から三十年になる。中曽根内閣のロン・康の時代、この時代地方優先に徹すると約束したが政府は嘘吐きだ。いま地方はほとんど疲弊し、鉄道の廃線が相ついでに。

私が当時旅をした北海道などは路線の三分の二はすでに廃線になった。また四国や九州も赤字で喘いでいるがJR九州は昨秋になってようやく株式上市が出来たが、鉄道事業が上向いた訳ではなく他の事業の収益だ。一方、JR東海は自社で南アルプスをくりぬくと

地方へ回すべきだ。専門家の試算では儲かっている路線の潤沢な収益をプールすれば全国に行き渡るそうだ。三公社、五現業と言われた時代の国鉄は確かに親方日の丸が行き過ぎていた。モーターライゼーションの波は避けられないとしても、全国を行脚して気が付くことは、鉄道が無くなった地域は間違いなく寂れている。バス運行に切り替えても時間の正確さと安全性は鉄道にはかなわない。また、皮肉なこと

に車社会の弊害でJR貨物が急進している。若者の車離れの要因はなにか。それと生き残りの為とはいえ格差を象徴するような各鉄道会社の豪華列車はいっ

なに長い旅が出来たのか少し説明したかったし、質問もあつた。昭和三十年代初頭は未だ就職難で、やがてやってくる就職列車が走る時代とは無縁だった。私も夢は有つたが長男として家を継承せざるを得なかつた。それには東京へ修行に

た。父は大正口マン漂う東京で当初苦労したが、やがて青春を謳歌して故郷へ帰るのが嫌だつたようだった。まして、父がいたのは銀座の一流店だった。一人っ子であつた為、泣く泣く引き戻された自分の経験から、息子を東京へ行かせれば多分帰つてこないと思つた。私が自身そうなつたと思う。したがって自分の店に就職したことになる。父は其の事の贖罪などと大げさでは無いが旅に出る事には一言も苦言は呈しなかつた、むしろ力メラなど買つてくれた。また、店の戦力として穴を開けても、まだ一人前ではないので問題はなかつたし、私も反抗心で旅に出た訳ではなかつた。

第八回からまた旅を続ける。

昭和29年当時の東京銀座通り

昭和29年当時の東京銀座通り

昭和29年当時の東京銀座通り

こちら資料館 174 武田彦左衛門先生の残した資料

堀越出身で郷土史研究家の武田彦左衛門先生が残された資料の整理が完了し、閲覧が可能となりました。

この資料は、ご遺族が村に寄贈されたもので、「豊丘村誌」編集の際に収集された古文書をはじめ、長年にわたつて研究されてきた地域の文化財や歴史・民俗に関する資料、先生が趣味とされた書・絵・漢詩の作品、各種報告書やパンフレット等、非常に多岐にわたる大量のものです。

そのため分類整理が難しく、大まかな整理はしてあつたものの、資料館の書

棚に横積みそのままになつていたというのが実情です。これを今回、林里の横前達さんをお願いして整理し直していただきました。古文書が読める横前さんは、一つ一つの資料を丁寧に読み込んで内容別に分類するという気の遠くなるような作業に根気よく取り組まれ、三年ほどを要した仕事がこのほど終了しました。写真のように、大量の資

料が一八〇〇余に小分けされ、それぞれが個別の封筒に収められて番号順に整然と並んでいます。また、目録が整えられていますので、必要な資料をすぐ取り出すことができます。研究的な価値ということは勿論ですが、彦左衛門先生のお人柄にも触れることのできる貴重な資料です。是非、手にとつてご覧いただきたいと思つています。

資料館主任 唐澤武彦

整理された資料

資料館主任 唐澤武彦

平成29年度 公民館役職員紹介 よろしくお願ひします (5月8日現在)

- 本館: 公民館長 原 国人、公民館主事兼社会教育係長 原 みほ子、公民館主事 唐澤 美幸、図書館司書 関口 京子、松尾こずゑ
社会教育委員: 貝原 豪、寺澤 愛子、武田 篤子、筒井 伸治、島尻理恵子(南小学校長)、安田 裕郎(一分館)、宇佐美和夫(二分館)
編集委員: 壬生 雅穂、桐崎 長一、原 明美、小池 淳子、正木 淳子、宮下 正弘、藤沢萌々香、吉田 裕
移動図書司書: 原 明美
男女共同参画推進委員: 堀本 明一、中原美穂子、森田 正純
スポーツ推進委員: 酒井 浩文、中原美穂子、酒井 泰尚、田島 紀子
分館長: 代田 正(一分館)、片桐 林三(二分館)、上沼 隆(三分館)、丸山 隆(四分館)、田島 亨(五分館)、小池 光好(六分館)
体育部: 小澤 孝光(一分館)、北澤 貴幸(二分館)、武田 徹(三分館)、木下 哲也(四分館)、松下 浩之(五分館)、三島 克喜(六分館)、三石 邦崇(七分館)
図書部: 吉川ゆかり(一分館)、船橋 正晴(二分館)、上地 由佳(三分館)、栗澤ひとみ(四分館)、武田 愛理(五分館)、北澤ますみ(六分館)、片桐 桂一(七分館)
社会部: 平 哲聡(一分館)、下平 英隆(二分館)、森田 元紀(三分館)、酒井 将兼(四分館)、北澤 功治(六分館)、壬生 清文(七分館)
分館主事: 三石 和志(七分館)、竹村 浩一(一分館)、池野 誠(二分館)、原 幸雄(三分館)、島岡 智(四分館)、林 寿彦(五分館)、唐沢 伸彦(六分館)、壬生 雅穂(七分館)

とよおか100年前

『豊丘村民話集』より 人魂を見た話 河野 代田茂人

私は今まで人魂をはつきり二回見たことがあります。一度目は五歳か六歳の時、別家へ父母に連れられて糊摺りに行った帰ります。それは十一月も末の寒い晩でした。夕飯をちようだいし、世間話を長くし十時ごろに母に手を引かれて河原から塩沢商店の横まで来た時、前の道路が青光りして昼のように一瞬明るくなりまして、あつと驚き前方を見ると、昔の沢本屋の屋根の上の方から竹やぶの方へ直径三寸ほどの青光りの玉が二間ほどの尾を引いて、ふわりふわりと竹やぶの中へ突き当り、その粉のようなのがちりちりになつて消えました。そばに行つてみたが何もなくて、父母は人魂でも何でもない話してしまいましたが、私はそれ以来、しばらくは便所に行くのが怖くて、いまま思ひ出してもぞつとします。二度目はちようど五十年ほど前、消防団へ入団して喇叭演習の時です。今の北小学校の旧校舎の西の方は、そのころは土俵があつたりして空き地になつておりました。その土俵の北側に六人ほど新しく喇叭を練習するものが並び、南の方へ向いて練習をしておりました。すると大宮様の上の竹やぶの



文責 壬生雅穂

～シリーズ～ 豊丘の自然

No.163

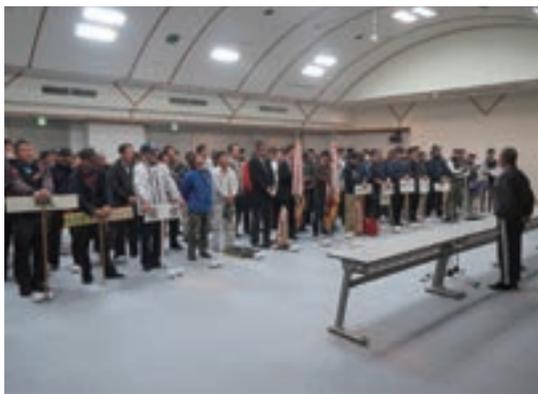
クロスジギンヤンマ (ヤンマ科)



五月六日、飯田市千代の池で、七十九個ものやご(幼虫)のぬげがらを発見した。ところが、一時間近く、その場に留まっていたのだが、成虫での確認はできなかった。羽化失敗の個体の一つだったので、クロスジギンヤンマと分かった。

それにしても、なぜ、成虫が見つからなかったのだろうか。どうも、トンボはセミとちがって、

(山田 拓)



新規加入の「雅会」をはじめ19チームが揃い開会式



5月8日(月)より熱戦が始まりました

第47回

夜間ソフトボール連盟 ナイターソフトボール大会開会式

本年度は19チームが参加

四月二十七日第四十七回 ナイターソフトボール大会の開会式が役場保健センターで行われました。

今年度は前年より一チーム多い十九チームの参加で、村長はじめ来賓の皆様を迎え賑やかに行われました。

一時は若い人達の野球、ソフトボール離れがあり十六チームまでチーム数が減ってしまいましたが、ここ数年は十八から二十チームを維持しています。

近年は仕事時間の多様化で第一試合が不戦敗になるチームがあり苦労しています。そのため他町村の方に応援して頂き試合が出来る体制をとっています。

また、指名打者制などの検討も今年度の中で、一人でも多くの方が試合にでられるよう研究をしています。そして試合も一晩に四試合がいいのか、二試合がいいのかも検討の材料です。変えられるところは変

(事務局 堀本明二)

今年度から、伝統ある館報とよおかの編集に携わらせていただきます。慈恵園職員の藤沢萌々香と申します。豊丘の地に来て二年目となり、一年間子どもたちと一緒に生活を送ることで、やっとこちらの生活にも慣れてきました。出身は佐久市なので、気候や風習、方言の違い等が転居当時はとても新鮮で、中でも出身地と比べ、伝統あるお祭りの多さに驚かされました。

若輩者ではございますが、諸先輩方に沢山のことを教わりながら、精一杯活動させていきます。宜しくお願ひ致します。

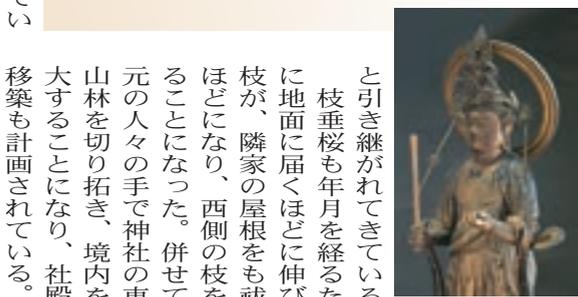


よろしく お願いします

公民館報新編集委員 藤沢萌々香



豊丘村林原木門(昔は鬼門と書いた)に虚空蔵堂が今から三百年程前に建立された。その庭には銀杏と枝垂山桜が植えられたが、百五十年前にお堂と庭木を焼失、新たに建立されたお堂とともに桜の植樹もされ、この桜が今優美な姿の枝垂桜となり、私たちの心を和ませてくれている。この枝垂桜が蕾をつけ、まさに花の宴を待ち望むように三月末、耳を澄ませるとこのお堂から和尚さんのお経が聞こえてくる。虚空蔵菩薩の



(写真:洞岩寺提供)

豊丘村林原木門(昔は鬼門と書いた)に虚空蔵堂が今から三百年程前に建立された。その庭には銀杏と枝垂山桜が植えられたが、百五十年前にお堂と庭木を焼失、新たに建立されたお堂とともに桜の植樹もされ、この桜が今優美な姿の枝垂桜となり、私たちの心を和ませてくれている。この枝垂桜が蕾をつけ、まさに花の宴を待ち望むように三月末、耳を澄ませるとこのお堂から和尚さんのお経が聞こえてくる。虚空蔵菩薩の



第1記

林原木門 虚空蔵堂の枝垂桜

俳句 短歌

庚申へゆつたり抱く花の揺れ
 仏心の生れよ夜明の白木蓮
 清明の風に吹かれて身を正す
 草花が咲きつぐ日々や春兆す
 水仙に邪魔している木の葉かな
 前山に化粧ほどこす春の雪
 花馬酔木栄枯盛衰墓に見る
 アルプスの空見える日も冴返る
 新横綱一日の重き春の場所
 新蓬搦き夫のコーラス届けけり
 段丘の土を押し上げ名草の芽
 リハビリに励みし母へ桜かな
 駒ヶ岳からりと初午の雪明り

磯部セツ子
 田中 静
 片桐 洋子
 下平 玲子
 三島 保子
 三島 里子
 木下 眞水
 松岡 照子
 宮下 公
 宮下 純子
 丸山 時子
 林 恵美子
 北原 昭子

供養としてお経を唱えているのだ。虚空蔵菩薩は知恵を授ける菩薩様として、この地域の人々に今でも深く信仰されている。

桜の蕾が大きく膨らみ、淡い紅色の花が盛りとなるころ、隣の春日神社では獅子舞奉納の地域浄化巡回に熱気を帯びている。お堂の桜が春を呼ぶ足音に、静まらないうちの枝垂桜が一つとなり、何百年もの歳月を五穀豊穰、悪魔祓い、雨乞を目的とする獅子の神仏習合が、地域信仰として脈々と

柳

〈豊丘川柳クラブ豊柳会〉

▼課題「内」互選

歳重ね内外面使い分け 林 桃子
 好奇心内なる扉開かせる 西元 峯子
 体内へ充電終わり農開始 原 美風

▼課題「首」互選

許されぬ飲酒運転首が飛ぶ 安田 喜子
 八十路でも首にされない農の道 桃沢 健介
 深入りし突っ込んだ首引き抜けず 福沢 勝美
 クラスでは首席の君も物忘れ 久保ひろし

▼自由吟 桃沢健介 選

おもねりと付度ばかりで国壊す 山本 義彦
 春風に夫婦げんかも和み出す 小澤 凛
 孫の声婆ちゃ元気が効く薬 市沢 照子
 村議会共謀罪に反発す 吉川 燎
 軸吟：暴発を許すな北と米のボス

〈短歌会 夢あるて〉

亡き姉の宛名のカタログ届きたり静岡産の新茶の香り 松尾ひさこ
 はるかなる海原こえてこの春もつがいの燕巣づくり始む 松下 泰見
 母鶏の叫ぶ声聞きて走りよる雛たちみみずの綱引きバトル 福澤貴美恵
 来庁の人なき朝の駐車場からすが一羽何をついばむ 眞由美
 激動の三つの時代生さし母笑顔のこして彼岸に逝きぬ 筒井 恵子
 歌詠むは十二歳からの習いにて八十六歳未だ続きぬ 富永 博道

〈あしたば短歌会〉

他愛なく児らの投げ込む小石にも水は躍りて波紋をえがく 毛涯百合子
 遠くよりお顔の見えしお姿を真近で拝む大船観音(鎌倉) 壬生 千春
 朝の雪夕には鶯の声すれば二つの季節に孫は喜ぶ 北澤 秀子
 大方は米寿過ぎたるクラス会肩書もなく無礼講となる 大倉 知江
 子のくれしアレンジフラワー華やきて一人の昼餉を安らぎており 久保田 妙
 待望のスカート短き制服に孫は忽ち高校生の貌 福澤 亀人